

## 第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

### 1 宮田村の高齢者の現状と今後の見込み

#### (1)宮田村の総人口の動向と将来推計人口

宮田村の人口は、令和元年末時点で8,991人となっており、今後年々人口は減少する見込みです。

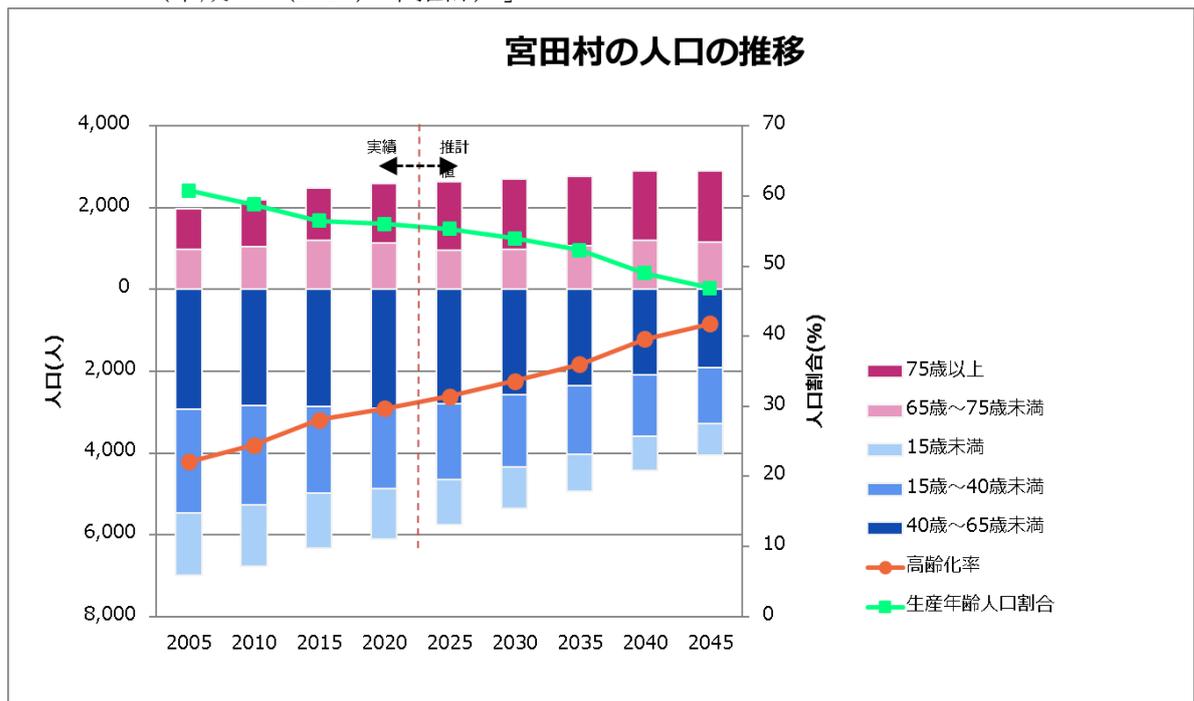
高齢者人口の増加が続く一方で、介護や看護等の担い手ともなる、年少人口・生産年齢人口は長期的に減少し続ける見込みです。

【宮田村の人口推移と推計】

	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
人口 (人)	8,968	8,974	8,821	8,700	8,389	8,056	7,708	7,333	6,970
15歳未満 (人)	1,528	1,485	1,339	1,239	1,110	1,001	902	839	789
15歳～40歳未満 (人)	2,529	2,430	2,114	1,965	1,837	1,765	1,685	1,503	1,351
40歳～65歳未満 (人)	2,927	2,847	2,869	2,910	2,805	2,582	2,343	2,087	1,920
65歳～75歳未満 (人)	977	1,038	1,201	1,141	961	988	1,072	1,195	1,154
75歳以上 (人)	1,005	1,165	1,276	1,445	1,676	1,720	1,706	1,709	1,756
生産年齢人口 (人)	5,456	5,277	4,983	4,875	4,642	4,347	4,028	3,590	3,271
高齢者人口 (人)	1,982	2,203	2,477	2,586	2,637	2,708	2,778	2,904	2,910
生産年齢人口割合 (%)	60.8	58.8	56.5	56.0	55.3	54.0	52.3	49.0	46.9
高齢化率 (%)	22.1	24.5	28.1	29.7	31.4	33.6	36.0	39.6	41.8
高齢化率 (長野県) (%)	23.8	26.4	29.8	32.4	33.9	35.4	37.3	40.0	41.7
高齢化率 (全国) (%)	20.1	22.8	26.3	28.9	30.0	31.2	32.8	35.3	36.8

(出典) 2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」

2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成30(2018)年推計)」



## (2) 高齢者人口の動向と今後の見通し

宮田村の高齢者人口は、令和元年度末時点の2,558人から、令和27（2045）年には2,910人となり、高齢化率は28.5%から41.8%まで上昇する見込みです。75歳以上の後期高齢者は、令和3年1月1日時点で1,409人であり、令和27（2045）年には1,756人と大幅に増加する見込みです。

75歳以上の年齢5歳階級別人口の見通しでは、令和27（2045）年に団塊の世代が属する階級が最も多くなっています。

40～64歳の人口は、令和2（2020）年をピークに減少し始めます。その一方65歳以上の人口は今後も増加する見込みです。

## (3) 高齢者の年齢階級別の要介護(支援)認定率

要介護(要支援)認定率は年齢を重ねるほど高くなり、認定者の約95%が75歳以上となっていて、要介護3以上の重度化も加齢と共に、危険度が高くなります。

【宮田村の前期・後期別の認定者内訳】

(単位：人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳以上75歳未満	2	3	1	6	7	5	0	24
75歳以上	16	29	74	62	59	55	37	332
合計	18	32	75	68	66	60	37	356

厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報（令和2年11月データより）

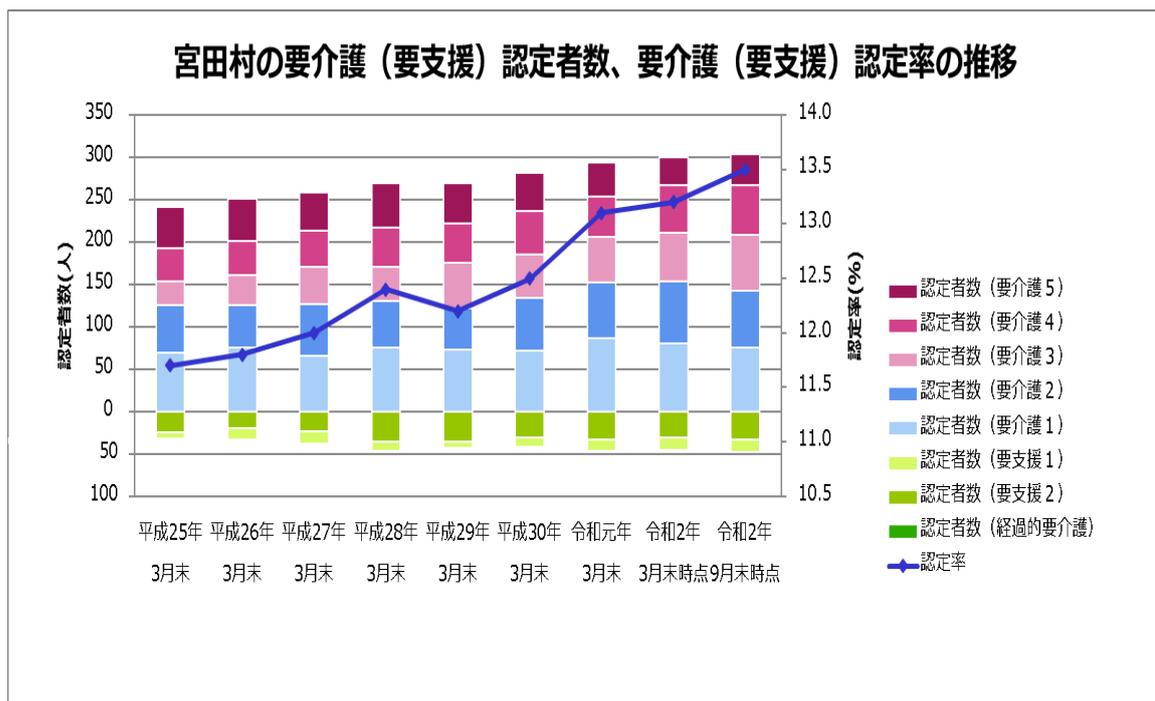
## (4) 要介護(要支援)認定者・認定率の推移

宮田村の要介護(要支援)認定者数は、年々増加しており、令和2年11月末で、356人となっており、平成29年度末の331人から25人の増加となっています。

要介護1の占める割合が最も多いですが、どの要介護認定者も年々増加しています。

【要介護度別の認定者数の推移と将来推計】

	平成25年 3月末	平成26年 3月末	平成27年 3月末	平成28年 3月末	平成29年 3月末	平成30年 3月末	令和元年 3月末	令和2年 3月末	令和2年 9月末時点
認定者数 (人)	273	284	297	315	313	323	340	345	352
要支援1 (人)	7	14	15	11	8	10	13	15	15
要支援2 (人)	25	19	23	35	35	31	33	30	33
要介護1 (人)	70	76	66	75	73	72	87	81	76
要介護2 (人)	55	49	61	55	49	62	65	73	66
要介護3 (人)	29	36	44	41	54	51	54	57	67
要介護4 (人)	38	40	42	46	46	52	48	56	58
要介護5 (人)	49	50	46	52	48	45	40	33	37
認定率 (%)	11.7	11.8	12.0	12.4	12.2	12.5	13.1	13.2	13.5
認定率(長野県) (%)	17.3	17.4	17.5	17.4	17.2	17.1	17.1	17.2	17.2
認定率(全国) (%)	17.6	17.8	17.9	17.9	18.0	18.0	18.3	18.5	18.6



#### (5) 単身高齢者、高齢者夫婦世帯の状況

宮田村の75歳以上の単身高齢者は、令和元年末時点で180世帯となっています。特に、75歳以上の単身高齢者は平成28年度末からの3年間で約60人増加しました。高齢者単身世帯と高齢者のみ世帯を合わせた世帯は、令和元年時点で、314世帯であり、一般世帯に占める割合は9.1%となっています。

#### (6) 認知症高齢者の状況

宮田村の認知症高齢者は、令和2年9月1日時点で要介護（支援）認定の際の医師の意見書の「認知症高齢者の日常生活自立度」の記載が、「Ⅱ」（日常生活に支障を来すような症状・行動などの困難さが、多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態）以上の高齢者は、82人で高齢者に占める割合は3.2%、「Ⅲ」（日常生活に支障を来すような症状・行動などの困難が見られ、何らか介護を要する状態）以上の高齢者は、132人で高齢者に占める割合は5.1%となっています。

## 2 介護保険サービス等の状況

### (1) 介護保険サービス利用状況

居宅介護サービスは年々の利用者数は増加傾向で推移していますが、地域密着型サービスと施設サービスは近年増減しています。地域密着型サービスの利用は村内施設の利用が原則となりますので、村外の施設を利用するような特別な理由が無い限り村内にある施設の定員以上の利用者数が発生しないこととなります。

【サービス分類ごとの利用者数の推移】

		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
施設サービス	小計 (人)	980	955	983	1,051	1,062	1,154	1,111	1,024
	介護老人福祉施設 (人)	446	458	478	504	520	545	513	491
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (人)	242	243	243	242	242	246	244	243
	介護老人保健施設 (人)	255	233	237	281	272	331	323	283
	介護医療院 (人)	-	-	-	-	-	-	0	0
	介護療養型医療施設 (人)	37	21	25	24	28	32	31	14
居住系サービス	小計 (人)	179	180	200	225	189	187	210	208
	特定施設入居者生活介護 (人)	82	93	112	128	95	92	112	109
	地域密着型特定施設入居者生活介護 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0
	認知症対応型共同生活介護 (人)	97	87	88	97	94	95	98	99
在宅サービス	訪問介護 (人)	408	464	431	403	442	377	392	452
	訪問入浴介護 (人)	8	28	37	24	16	31	20	18
	訪問看護 (人)	451	490	486	396	372	392	427	430
	訪問リハビリテーション (人)	151	103	105	120	174	286	242	261
	居宅療養管理指導 (人)	541	575	535	552	523	640	738	812
	通所介護 (人)	934	991	940	884	830	751	769	802
	地域密着型通所介護 (人)	-	-	-	-	104	147	176	104
	通所リハビリテーション (人)	621	664	705	714	744	801	894	886
	短期入所生活介護 (人)	88	115	120	127	135	151	196	183
	短期入所療養介護 (老健) (人)	202	201	225	233	219	333	326	346
	短期入所療養介護 (病院等) (人)	137	123	142	157	135	88	120	126
	福祉用具貸与 (人)	1,280	1,482	1,414	1,475	1,562	1,759	2,074	2,151
	特定福祉用具販売 (人)	41	26	33	24	24	38	46	28
	住宅改修 (人)	10	15	14	14	28	23	30	17
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (人)	0	0	0	0	0	1	6	4
	夜間対応型訪問介護 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0
	認知症対応型通所介護 (人)	63	81	5	0	0	0	0	0
	小規模多機能型居宅介護 (人)	222	287	286	341	409	369	389	378
	看護小規模多機能型居宅介護 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護予防支援・居宅介護支援 (人)	1,865	1,963	1,889	1,882	2,014	2,055	2,267	2,315

【実績値】厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和元年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

【計画値】介護保険事業計画にかかる保険者からの報告値

## (2)介護保険給付費の現状

今期の介護保険給付費は増減している状況ですが、その中でも特に居宅介護サービスでは、医療系のサービス「居宅療養管理指導」、「地域密着型通所介護」、「通所リハビリテーション」、「短期入所生活介護」の利用者が顕著です。

一方、施設入所サービスの利用者数は減少しました。

**【年間の介護サービスの利用状況】**

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (R2/2月サービス 提供分まで)
費用額 (円)	692,740,756	706,458,418	765,282,528	780,484,356	762,121,896
費用額 (在宅サービス) (円)	352,503,956	368,704,721	394,852,558	421,369,156	420,722,126
費用額 (居住系サービス) (円)	54,307,370	48,377,130	49,391,410	50,100,100	50,662,200
費用額 (施設サービス) (円)	285,929,430	289,376,567	321,038,560	309,015,100	290,737,570
第1号被保険者1人1月あたり費用額 (円)	22,417.4	22,446.7	24,260.0	24,736.6	24,045.4
第1号被保険者1人1月あたり費用額 (長野県) (円)	24,215.9	24,072.3	24,230.7	24,423.7	24,776.5
第1号被保険者1人1月あたり費用額 (全国) (円)	22,926.6	22,966.8	23,238.3	23,498.7	24,138.0

(出典)

**【費用額】**

平成27年度から平成30年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和元年度：「介護保険事業状況報告（月報）」の12か月累計、令和2年度：2月までの「介護保険事業状況報告（月報）」の累計（※補足給付は費用額に含まれていない）

**【第1号被保険者1人あたり費用額】**

「介護保険事業状況報告（年報）」（または直近月までの月報累計）における費用額を「介護保険事業状況報告月報」における第1号被保険者数の各月累計で除して算出

**(3) サービス資源の現状**

令和2年12月現在、村内の介護保険事業所数は以下のとおりです。

**【宮田村内にある介護サービス事業所数】**

事業所の分類	事業所数
訪問介護	2
訪問看護	1
訪問リハビリ	1
居宅療養管理指導	7
通所介護	3
通所リハビリ	1
短期入所	3
福祉用具貸与	1
居宅介護支援	2
小規模多機能型居宅介護	3
認知症対応型共同生活介護	1
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1
特定施設入居者生活介護	1
介護老人保健施設	1
合計	28

### 3 高齢者実態調査の結果について

本計画策定の基礎資料とするため、「要介護（要支援）認定者実態調査」及び「一般高齢者実態調査」を以下のとおり実施しました。

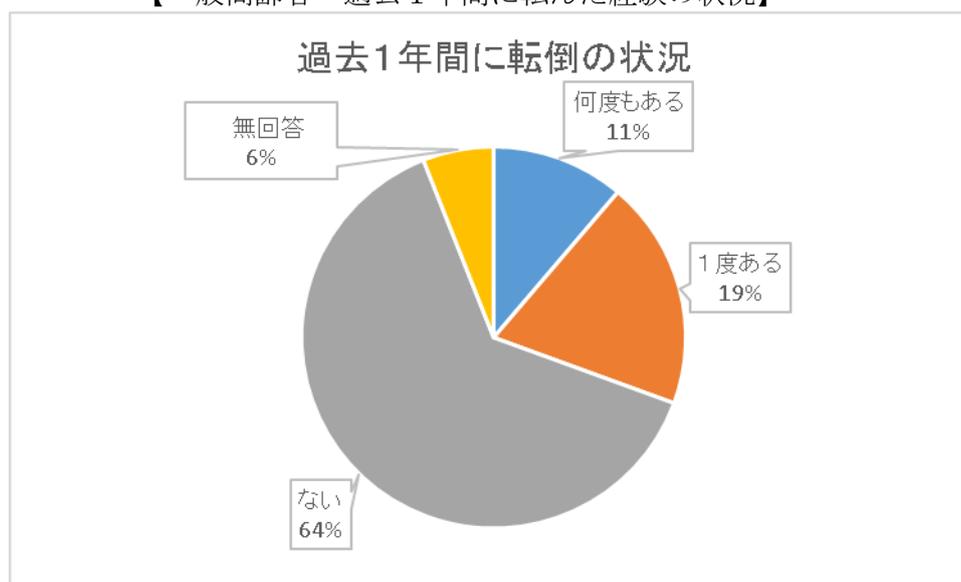
実施期間：令和元年 11 月 28 日（木）から令和元年 12 月 20 日（金）

種別	一般高齢者実態調査	要介護（要支援）認定者実態調査
調査項目	全 66 項目	全 59 項目
対象者	65 歳以上で要介護（要支援）認定を受けていない在宅の高齢者	65 歳以上の在宅で要介護・要支援認定を受けた高齢者全員
対象者数	コンピューターにより 150 人を無作為抽出した。	227 人
回答者数（回収率）	134 人（89.3%）	140 人（61.7%）

#### （1）健康づくり・介護予防（運動）について

一般高齢者のうち、「過去 1 年に転倒経験ありの人」は 30.0%、「転倒に不安のある人」は 50.8%と高くなっており、いずれも加齢とともに割合が高くなります。

【一般高齢者 過去 1 年間に転んだ経験の状況】



#### （2）地域づくり・社会参加について

地域活動について、「活動等に参加してみたい」と回答した人は、一般高齢者で 46%となっています。

参加したい活動は、「趣味、娯楽活動」が 38 人で最も多く、次いで「スポーツやレクリエーション活動」23 人となっています。

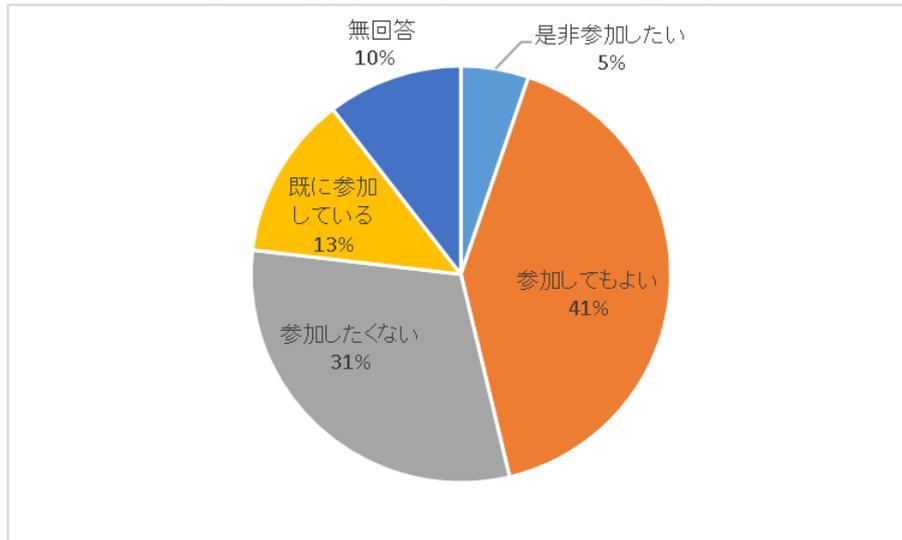
また、「となり近所で困っている家庭があった場合にできる支援」の質問に対しては、「買い物」33%、「安否確認等の定期的な声かけ・見守り」32%、「急病など緊急時の手助け」31%の順となり、昨今の災害の発生から「災害時の手助け」も 24%で 4 番目に多い順となりました。

閉じこもり傾向リスク者は、一般高齢者で約 9 割の方が週 1 回以上の外出をしていますが、約 5%（6 人）方はほとんど外出していない状況です。

友人宅への訪問状況について、一般高齢者の約9割の高齢者が友人宅に訪問していますが、約1割の方が友人宅に訪問していない状況で、要介護認定者では約4割の方がほとんど外出していない状況です。

さらに、心の健康状態について、「趣味」や「生きがい」を思いつかないと回答した人は、一般高齢者よりも要支援者の方が多くなっています。要支援者となることで、社会との関わりが薄くなる傾向があります。

【一般高齢者 地域活動への参加意向】

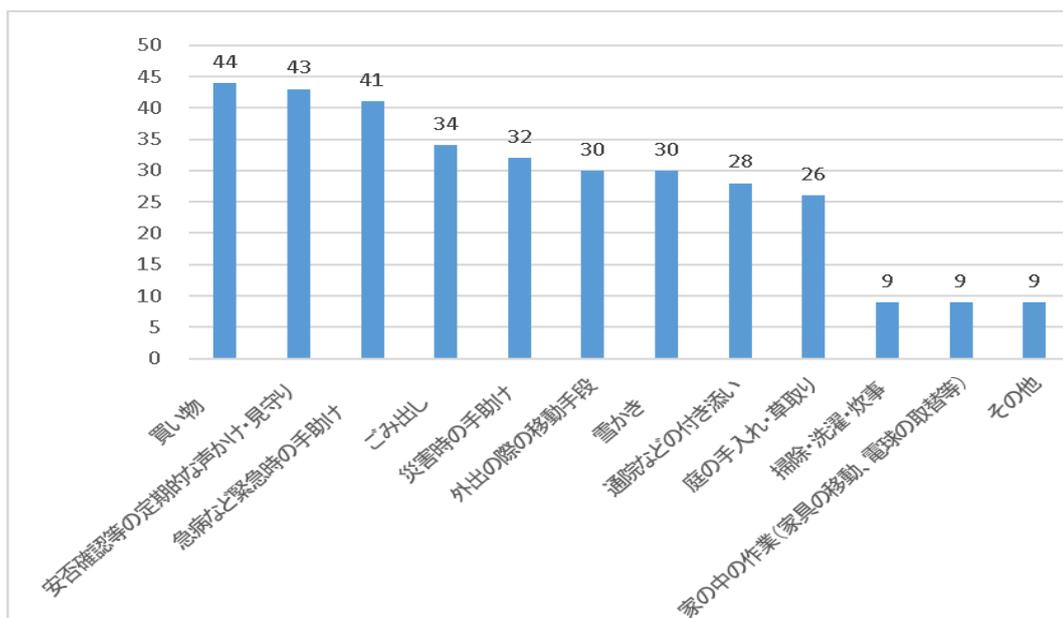


【一般高齢者 近所で困っている人にできる支援内容】

(単位：人)

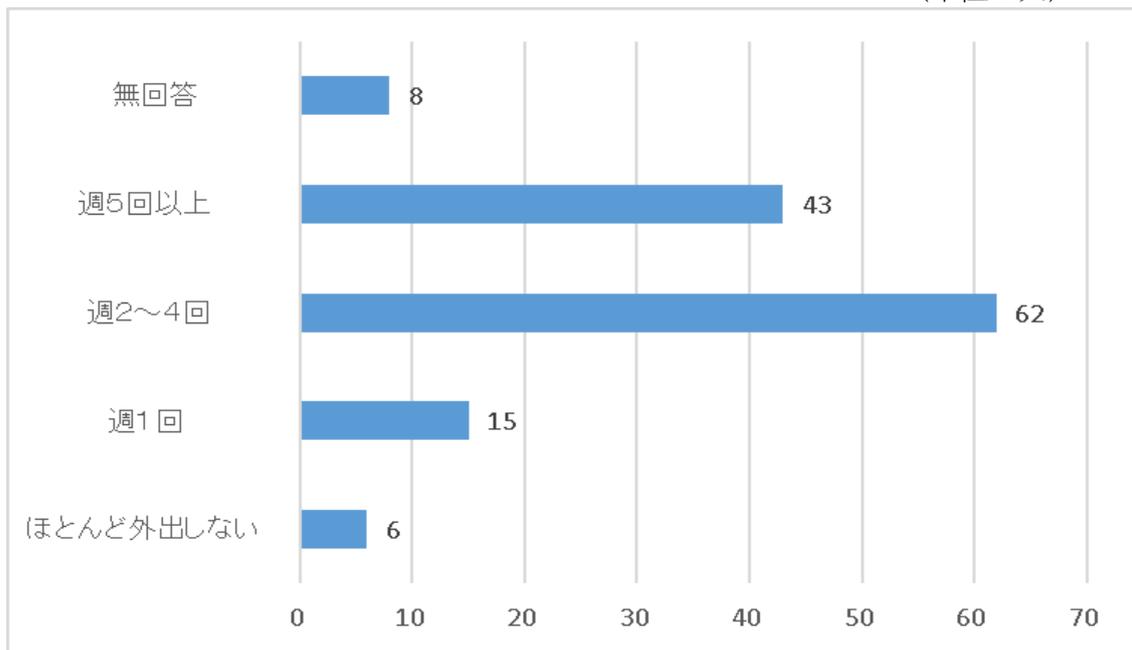
支援内容	人数
買い物	44
見守り	43
安否確認等の定期的な声かけ・定	41
急病など緊急時の手助け	34
ごみ出し	32
災害時の手助け	30
外出の際の移動手段	30
雪かき	28
通院などの付き添い	26
庭の手入れ・草取り	9
掃除・洗濯・炊事	9
電球の取替等	9
家の中の作業(家具の移動、その他)	9

\*複数回答



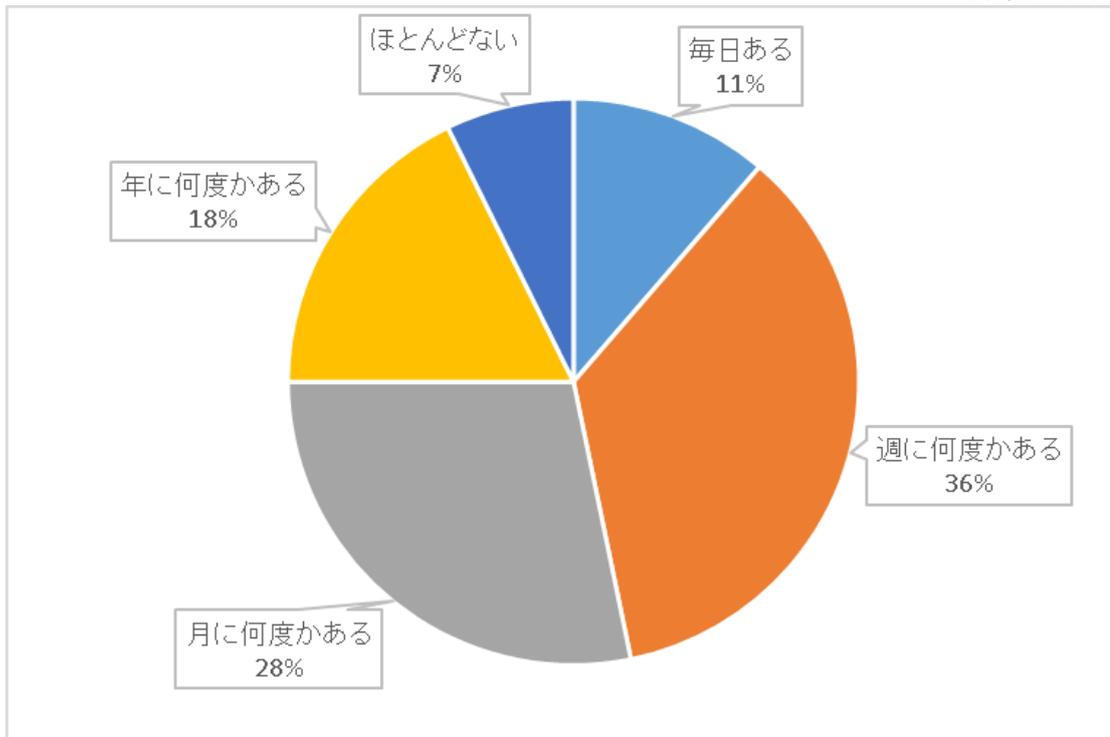
【一般高齢者 外出の頻度】

(単位：人)



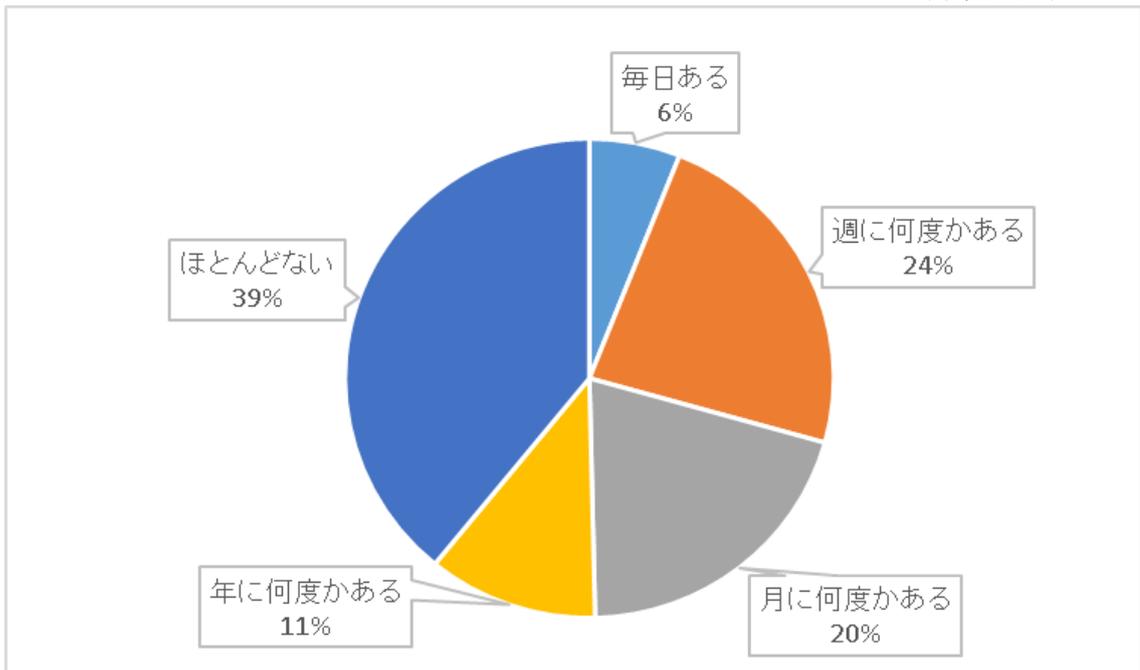
【一般高齢者 友人と会う頻度】

(単位：人)



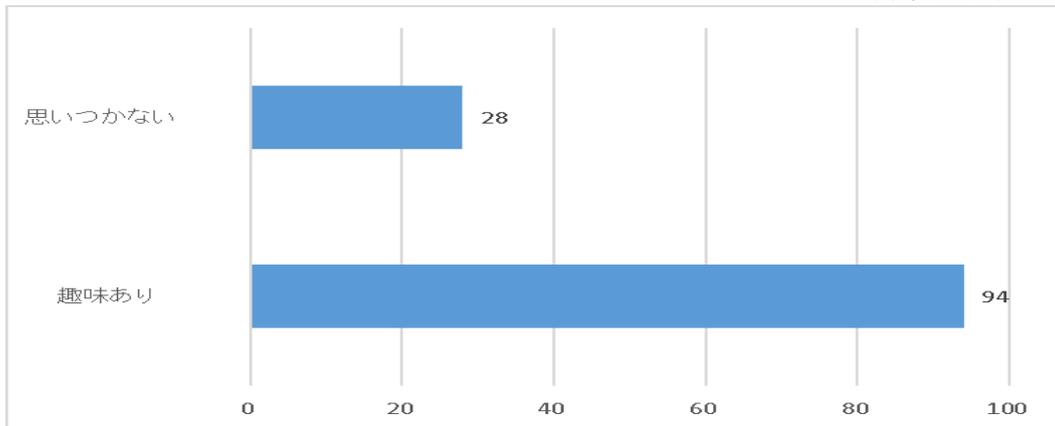
【要介護認定者 友人と会う頻度】

(単位：人)



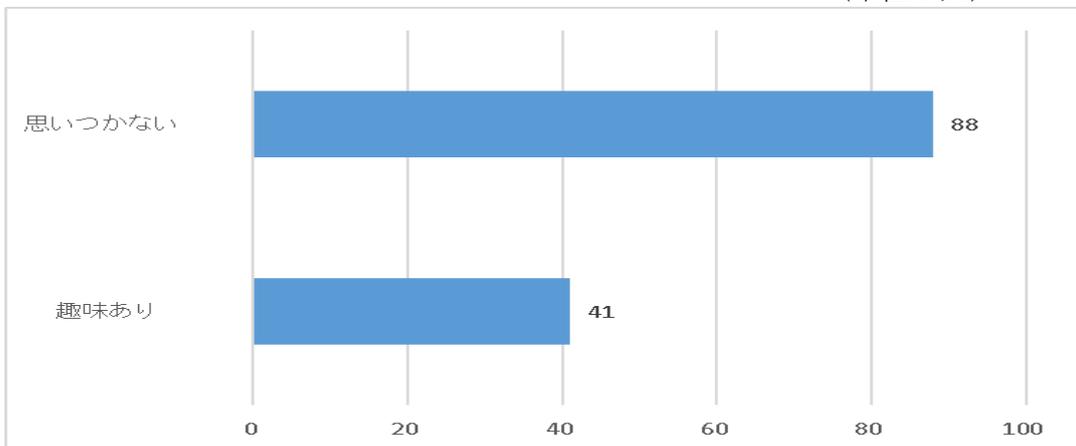
【一般高齢者 趣味の有無について】

(単位：人)



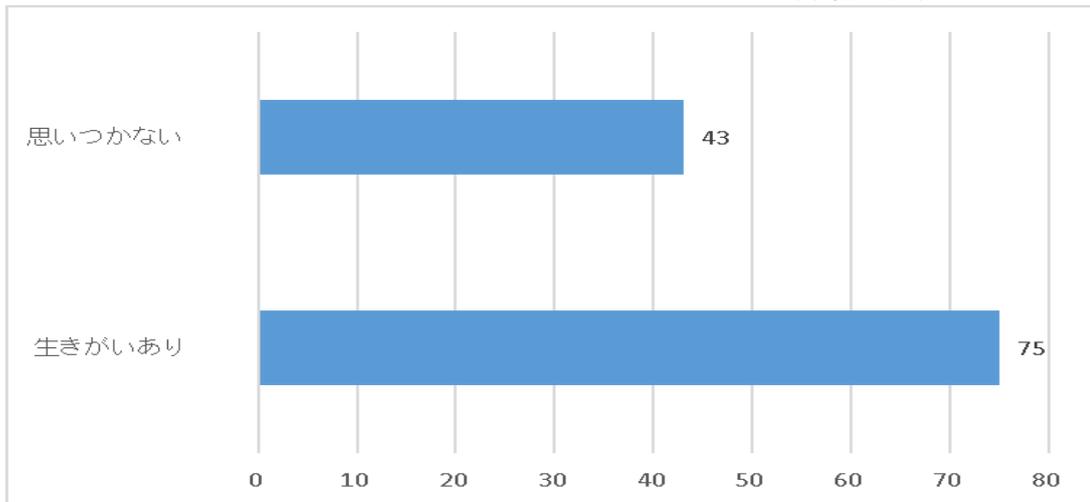
【要介護認定者 趣味の有無について】

(単位：人)



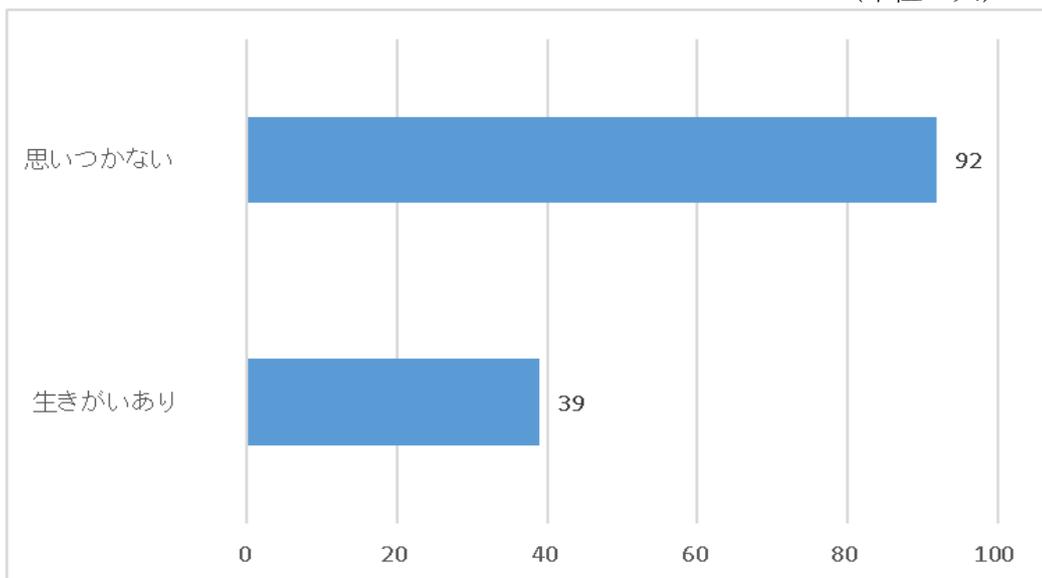
【一般高齢者 生きがいの有無】

(単位：人)



【要介護認定者 生きがいの有無】

(単位：人)

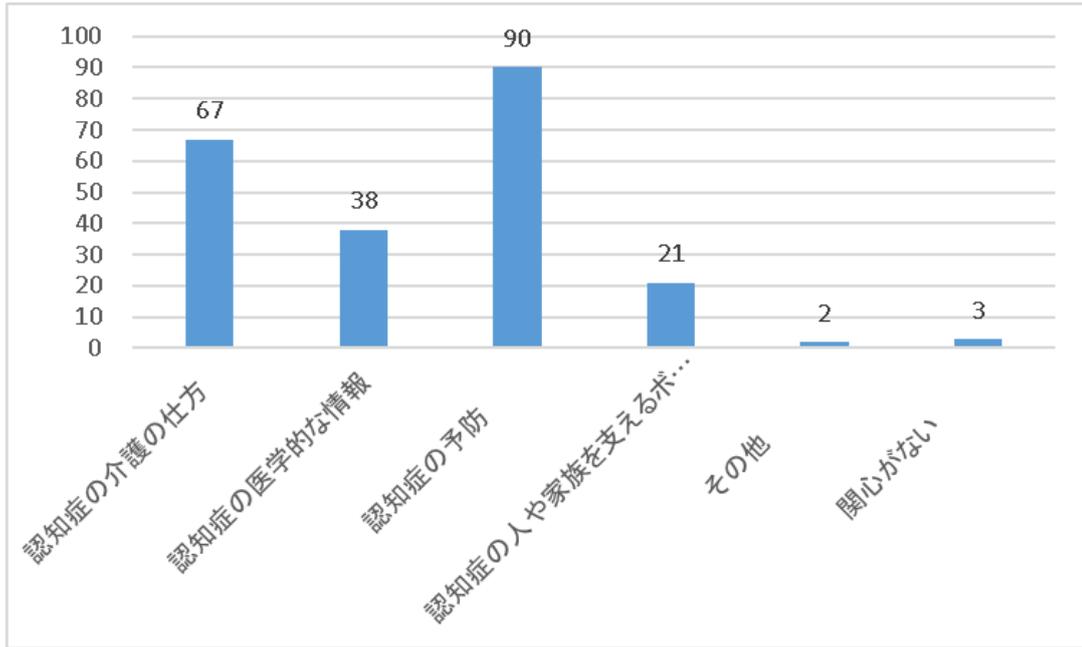


### (3)認知症高齢者の状況

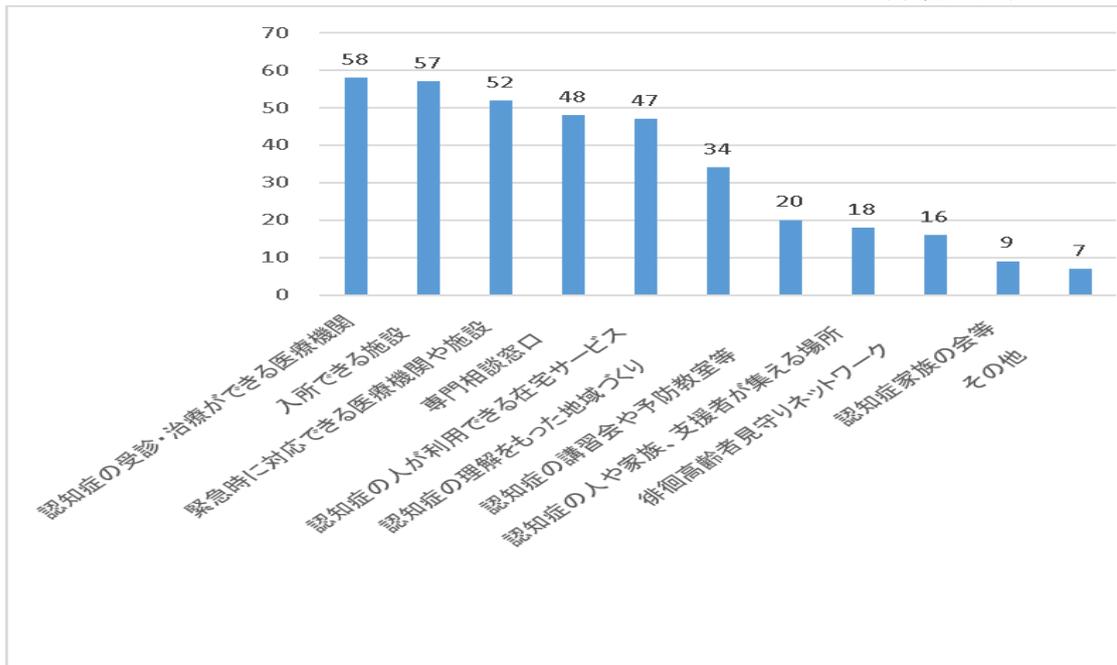
認知症の関心については、「認知症の予防」と回答した人が67.2%最も多く、次いで「認知症の介護の仕方」(50.0%)となっています。

また、認知症になっても安心して暮らすことできるために充実してほしいのは「認知症の受診ができる病院・診療所、施設」と回答した方は、一般高齢者で58人となり最も多くなっています。

【一般高齢者 認知症について関心のあること】



【一般高齢者 認知症になっても安心して暮らせるために充実を求めるもの】  
(単位：人)



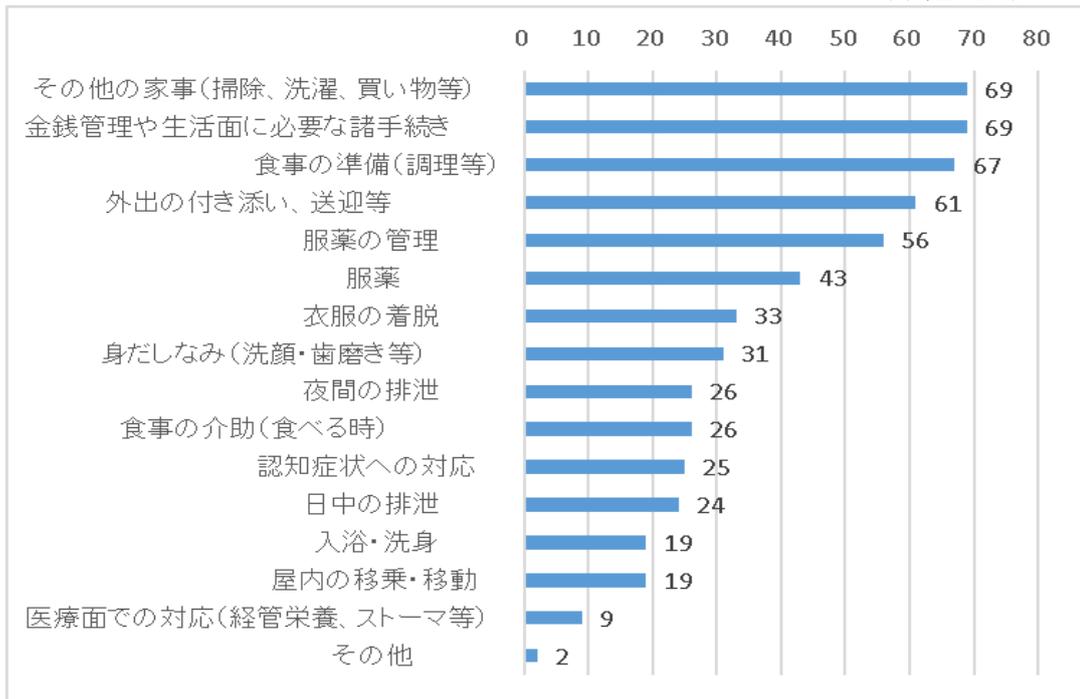
\*複数回答

#### (4)在宅介護について

要介護者のうち、介護者や介助者が行っている介護としては「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が最も多く（69人）、次いで食事の準備（67人）となっています。

【要介護認定者 受けている介護内容】

(単位：人)

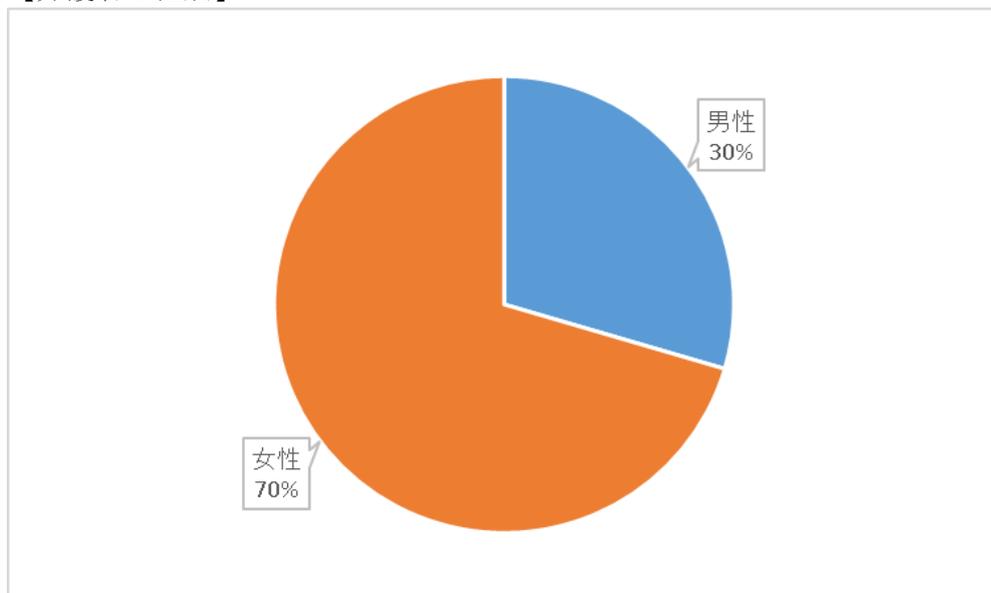


\*複数回答

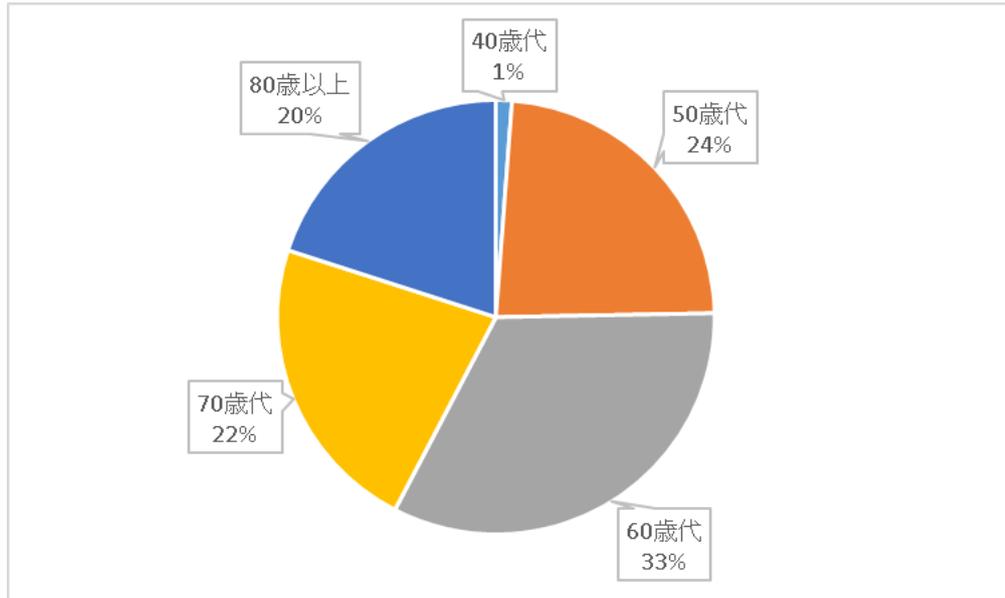
主な介護者・介助者の状況としては、約7割が女性で、年代は60歳代(約3割)、次いで50歳代、70歳代、80歳代がそれぞれ2割弱の順位となっています。

また、続き柄では、配偶者の28%が最も多く、次いで娘(22%)となっていて、1週の介護頻度は「ほぼ毎日」が約7割で最も多い結果となりましたが、介護を継続する上で約3割の介護者が「排泄」の介護に対する不安を感じています。

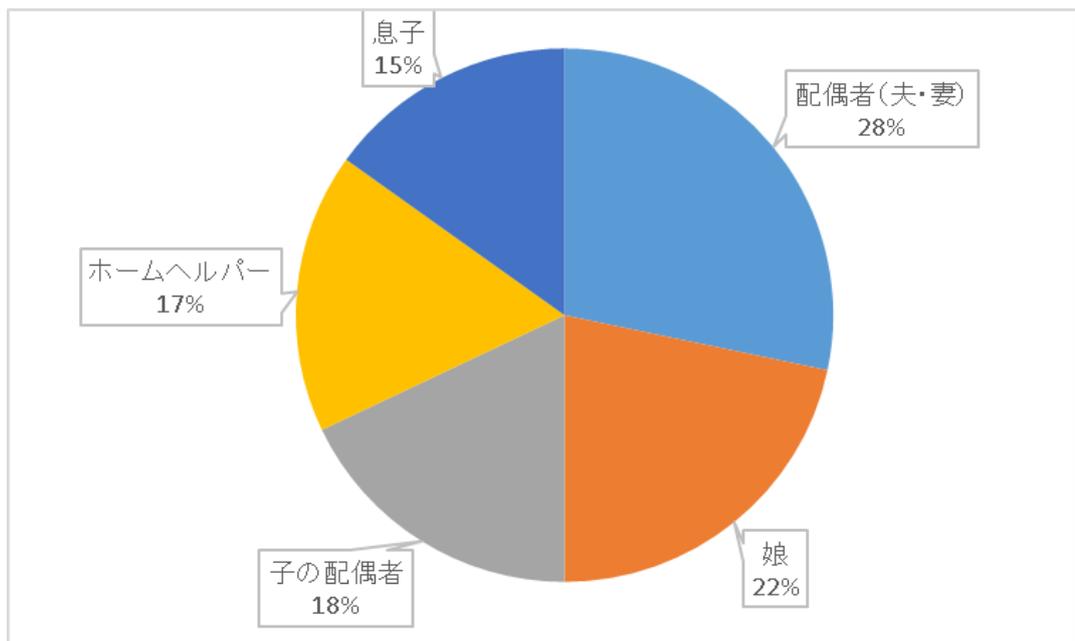
【介護者の性別】



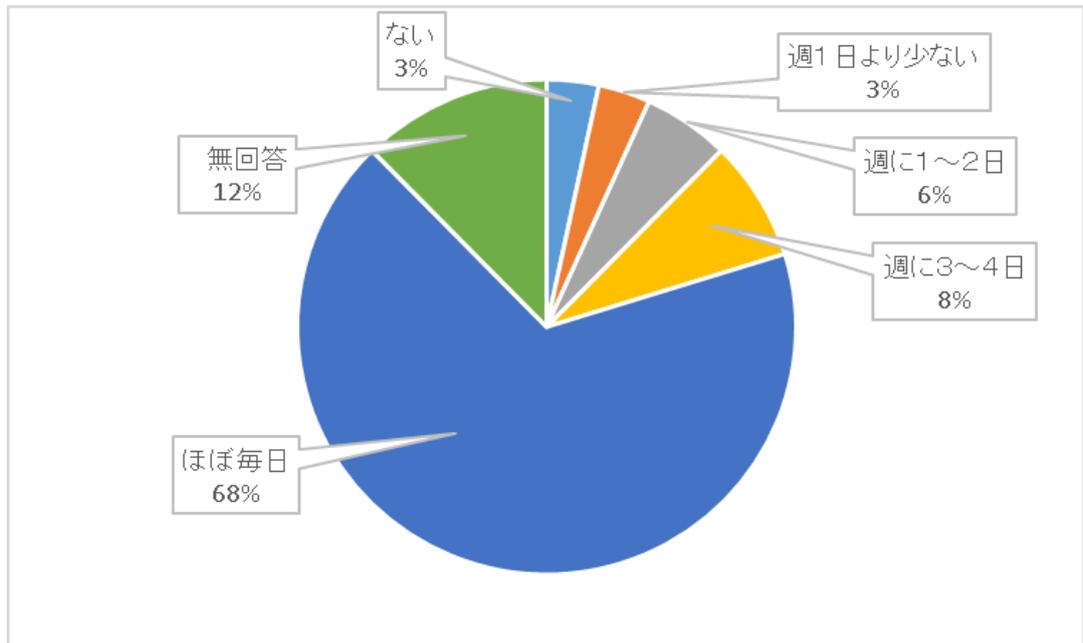
【介護者の年齢】



【介護者の続柄】

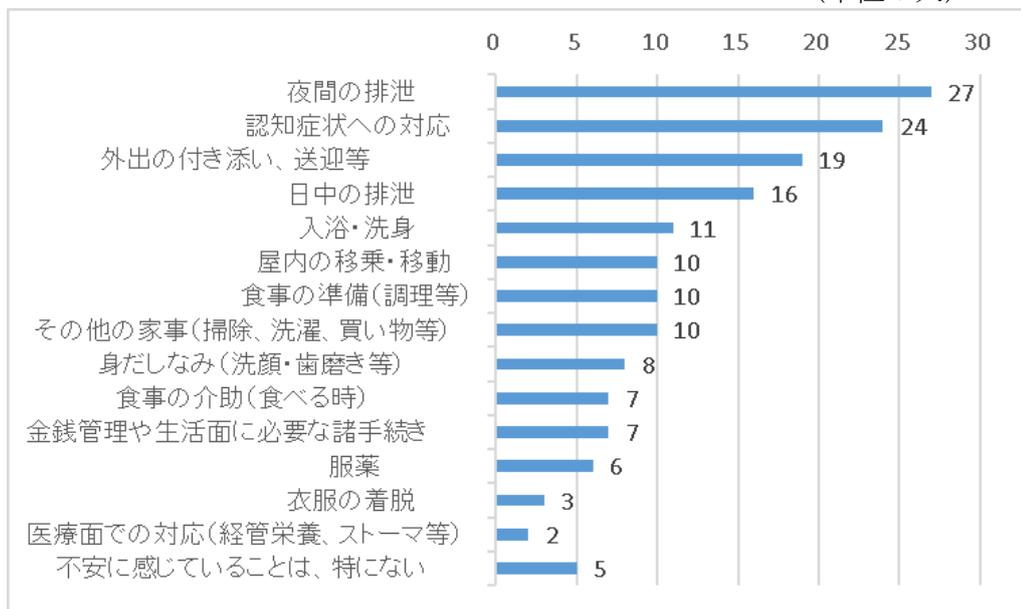


【週の介護頻度】



【今後不安に思う介護内容】

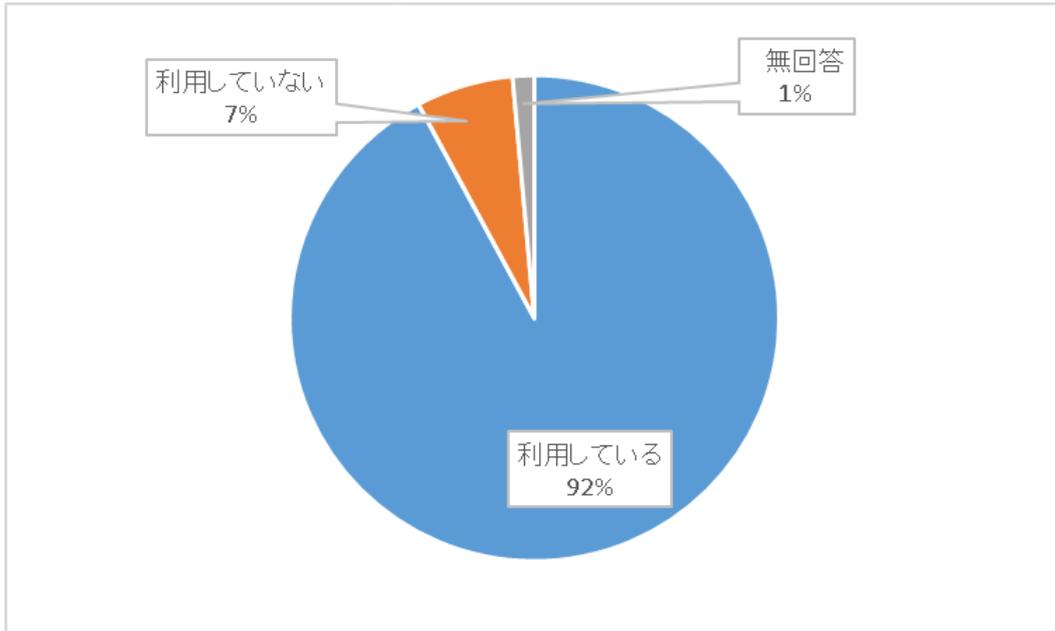
(単位：人)



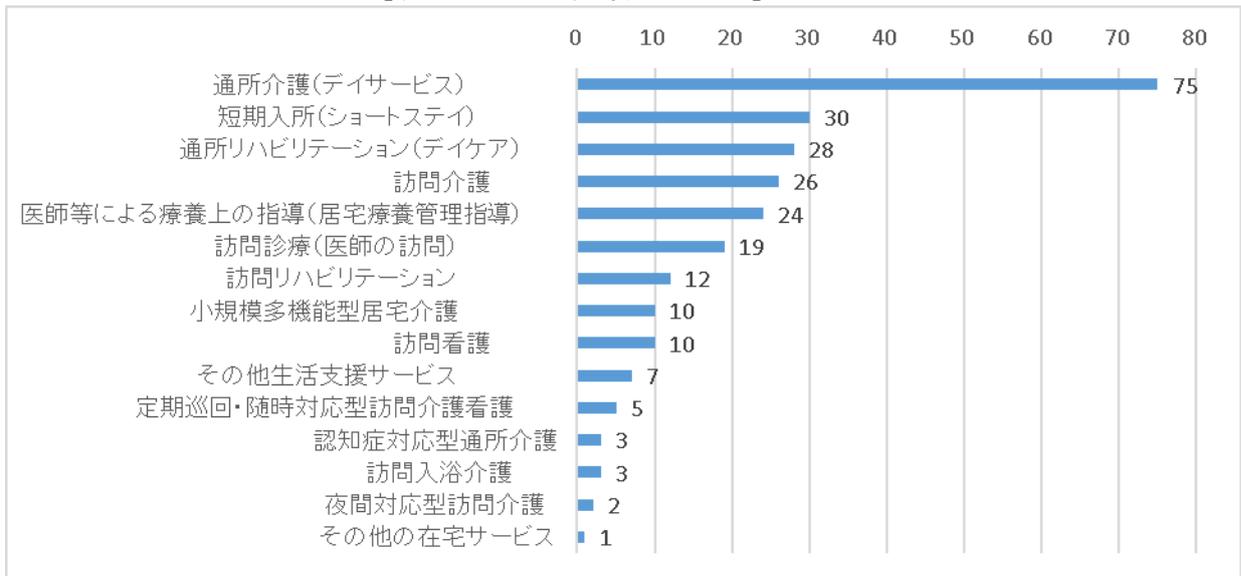
\*複数回答

9割弱の人が介護保険制度のサービスを利用して、最も多くの人々が利用しているのが「通所介護（デイサービス）」（75人）で、次いで「短期入所（ショートステイ）」（30人）、「訪問リハビリテーション（デイケア）」（28人）の順となりました。

【介護サービスの利用状況】



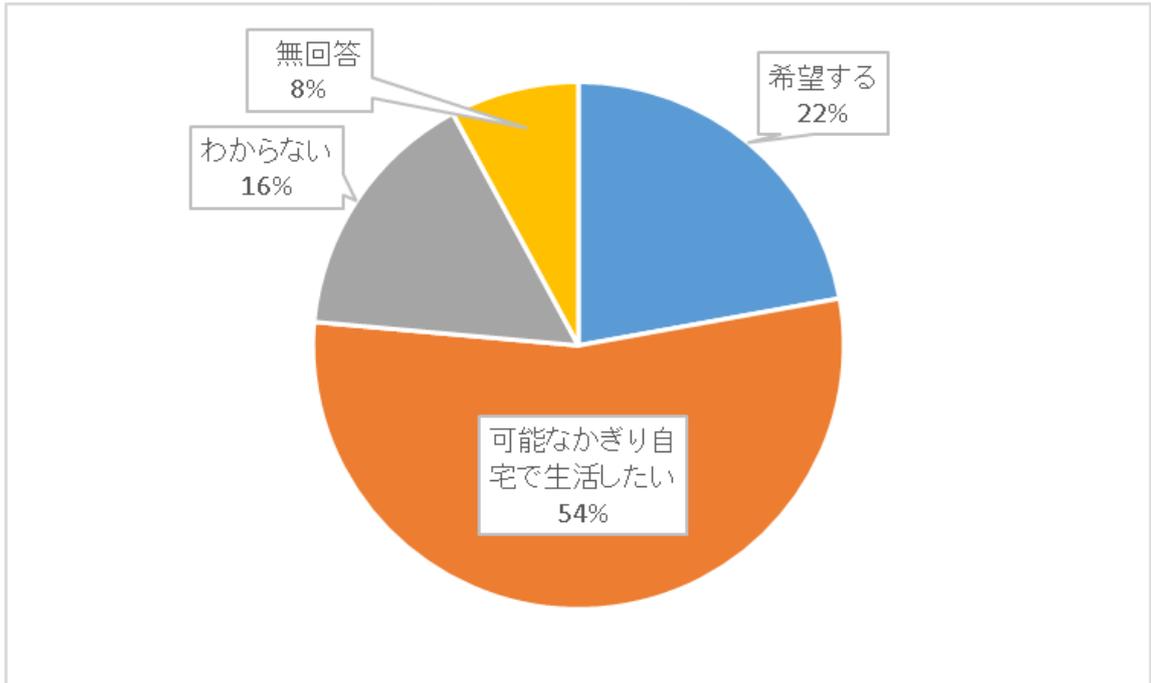
【利用している介護サービス】



\*複数回答

今後の施設への入所意向については、約 5 割の人が「可能な限り自宅で生活したい」と答えています。

【施設への入所意向】



在宅での生活を支えるための支援としては「緊急時など、必要ときにショートステイや宿泊サービスが利用できること」（97人）と最も多く、次いで「デイサービスなどの通所サービスを必要な時に利用できること」（81人）、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」（73人）の順となり、緊急時の対応と医療面での支援を希望しています。

【在宅介護を支えるために必要な支援】

